

今年もにぎわった秋祭り

街角にキンモクセイの甘い香りが漂い始めるころ、善通寺は祭りでにぎわいます。十月五日の大麻、中村などの祭りを皮切りに、十月二十日まで市内各地で行われた秋祭りは、今では地域のコミュニケーションに大いに役立っています。祭りが終わると善通寺にも本格的な秋が訪れますが、今回は「ふるさと善通寺」の祭りを特集しました。



秋まつりには、大勢の人がいろいろなかたちで参加しました

秋祭りは収穫感謝の祭り

年々盛んになる秋祭り。祭当日には神輿が繰り出し、奴の行列が練り歩き、あちこちから獅子舞の鉦の音が聞こえ、大勢の人たちが出て、まちはにぎわいをみせます。

善通寺の秋祭りは、五穀豊饒を農耕の神に感謝し、みんな喜びを分かち合う祭りです。いわば収穫感謝の祭りですから、春や夏の祭りとは比べると、おのずと楽しく、にぎやかになるのも当然です。

昔の人たちは、できるだけ祭りを自分たちの才覚で楽しいものにしようとしていました。隣の村に神輿があれば、わが村にも神輿を、派手な獅子舞があれば、それをわが村では一層華やかなものにしようとした。そこで、今日の秋祭りで見られるよ

うな神輿が出、獅子舞が舞うようになったのです。

秋祭りといえば、獅子舞を思い浮かべる人も少なくないでしょう。それほど祭りに欠かすことのできないひとつになっています。

市内には五十七の獅子組があり、二十人から五十人の若者で一組の獅子組が構成されています。ここ十五年の間には、一時途絶えていた獅子組が復活した部落もあり、最近では小学生、中学生、高校生の参加者も増え、徐々に後継者も育ってきているようです。

一昔前の祭りのようす

ところで、昔の祭りを古くは、こんなふうに出してあります。

関岩太郎さん（善通寺町77歳）は、「昔は、祭りとはいえ十月十六日、十七日と決まっていたもんです。獅子の数は今よりも多く、お旅所へ行く行列には何本ものほりが立って、それは派手でしたよ。北向八幡神社の神主さんが、馬に乗

ってお下がりしていたこともありましたが、最近、池下にも獅子が復活したんですが、祭りがにぎやかになったと喜んでるんです」と話してくれました。

「わたしのおやじに聞いた話ですが、獅子をつかう場所のことで争いになり、それが部落間の問題にまで発展し、ついには、たんぼに入れる水にまで影響したことがあったらしいですね。

今では、みんなが仲良く祭りを楽しんでいるようです」と鈴木修さん（稲木町・61歳）。祭りの思い出は、何も男たちだけではありません。黒沢イハエさん（木徳町・70歳）は、「祭りになると、どの家でも甘酒やおすし、芋やれんこんなどの揚げ物をつくったものです。今でこそ

秋祭りはコミュニケーション

チンチキ・チンチキ・チンコン……祭りの数日前にもなると、市内各地の集会所や民家の納屋からは、力強い太鼓の響きとともに澄んだ鉦の音が聞こえてきます。中に入ると、太鼓や鉦のたたき方を子供たちに教える人や、獅子のつかい方を習う若者の真剣な姿があります。



古い伝統芸能を若い人たちの手で後世へ

大いに役立っています。みんなが力を合わせて、地区に伝わる祭りを動かしていくことが、最も自然な

ちで人間同志が結びついた地域コミュニケーションではないでしょうか。

木徳西組の子供たちは、今年の祭りに大人たちの手づくりの「だんじり」を引いて町内を練り歩きました。



大森下西組では、二十二年ぶりに「ちょうさ」を復活させました。スポーツで親睦を深めている獅子組もあります。こうした祭りを通しての人と人とのつながりが、新しい地域づくりの基盤になっているのです。

大切にしたい 伝統と心



木熊野神社の特殊神事

時の流れとともに、祭りの姿も少しずつ変わってきたようですが、氏子のみなさんの努力によって香川県無形文化財の木熊野神社（中村町）の特殊神事をはじめ、地区の祭りは大切に伝えられています。今も祭りの日には、神社やお

祭りそのものは多くの人たちがいろいろなかたちで参加し、ともに楽しんでいます。最近の祭りは、対象が広がってきた点が

旅所にはのぼりが立てられ、夜になると家々の軒先には、ご神燈のちょうちんがぶら下がっています。また、お神楽を舞ったり、氏子をつけに宮参りに行く家族連れも見られます。このように神に感謝し、祭りを祝う心は変わることなく確実に受け継がれています。



坂本 司さん
(与北町・31)

道具を一つずつそろえ、獅子組復活に尽力された先輩たちの苦勞も実り、今では祭りの日に「村づかい」までできるようになりました。子供たちも大勢参加し、後継者も徐々に育ってきています。

獅子組は、地区の若者たちの交流の場であり、これを広げていくためにも完全に復活させることが、わたしたちの努めです。



田中重雄さん
(吉原町・27)

子供のころ、一度祭りに出た記憶はありますが、二十歳になるまでは、祭りは見るものと思っていました。ところが七年前、久しぶりに出た祭りのおもしろさを肌で感じてから、積極的に参加するようになりました。祭りは地区の財産です。獅子組は地区の若者の財産です。この財産を守っていくことが、住みよい地域づくりにつながると思います。

寺の秋祭り、これからもみんなの手で大切にしていきたいものです。



宮西
(木熊野神社・中村町)



宮東
(木熊野神社・中村町)



乾
(木熊野神社・中村町)



西下所
(木熊野神社・中村町)



辨天
(木熊野神社・中村町)



弘田下所
(春日神社・弘田町)



川東
(春日神社・弘田町)



上組
(春日神社・弘田町)



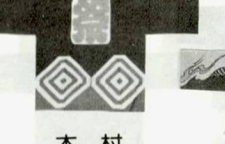
阿瀬
(春日神社・弘田町)



本村
(東西神社)



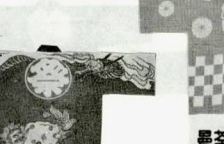
西碑殿
(西碑殿天満宮)



三井之江
(東西神社)



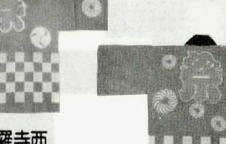
十五丁
(東西神社)



曼荼羅寺西
(水分神社)



曼荼羅寺東
(水分神社)



上川原
(備前神社)



下川原
(備前神社)

ちょっとした不注意から火災に

「秋の全国火災予防運動」始まる

11月26日～12月2日

今年も、秋の火災予防運動が「怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」」「消えたはず」を統一標語に、十一月二十六日から十二月二日までの一週間、全国一斉に行われます。

火遊びなどがあげられます。これから冬場にかけて、最も火災の発生しやすい時期を迎えますが、一人ひとりが「自分の家からは絶対に火を出さない」という防火意識を持つことが大切です。

なお、火災予防運動の期間中、市では次の行事を行いますので、家庭や職場で防火について話し合い、「火災ゼロ」を目指しましょう。

- ▼防火思想普及作品の展示
- ▼一般家庭の防火診断
- ▼消防車・広報車による市内巡回防火宣伝
- ▼サイレンの一斉吹鳴
- ▼防火対象物の立入検査
- ▼各事業所の消火避難訓練の指導
- ▼少年・婦人防火クラブ員との地区懇談会とクラブ員による市内巡回防火広報

防火作品を 展示します

市内の小学校六年生の児童と四国少年院の院生から募集した防火作品（ポスター、書道）を展示しますので、ぜひご覧ください。

▼市民会館ロビー
十二月三日～五日
十二月六日～十四日
▼東公民館

・東部地区・竜川地区・与北地区・筆岡地区

防火診断にご協力を



火災を防ぐには、一人ひとりの防火意識が大切です

日、日曜日、祝日の午前九時から午後五時までの予定で消防職員が伺います。市民の皆さんの防火に対するご理解とご協力をお願いします。

